

# 中西だより

平成29年2月28日  
練馬区立中村西小学校  
No. 1 1 (3月号)

## ～格に入り、格より出て初めて自在を得べし～ 次年度への新たな挑戦

校長 神永 武志

校長室の南側の梅が美しく咲き誇っています。2月18日の「雨水」も過ぎ、間もなく新しい季節を迎えるにあたり、学校では年度のまとめやお別れ・出会いの頃となります。最後まで充実した取組ができることを願って、先日(24日)「交流給食」や「6年生を送る会」が行われました。その中で各学年による出し物として、6年生へ精一杯の表現をし、「卒業おめでとう」の気持ちや感謝を伝えました。

私も会の中で、6年生に向け、「小学校で学んだ土台を基に、中学校では自分の力をさらに伸ばしてほしいということと、この会の成功のために、代表委員会を中心に、各学年がたくさん練習に力を尽くしてきたということも、有り難く受け止めましょう。」と述べました。

さて、「奥の細道」の松尾芭蕉は次のような言葉を遺したと言われています。

「格に入りて格より出ざるときは狭く、また格に入るときは邪路に走る。格に入り、格より出て初めて自在を得べし。」言い換えると格とは「型」・「基本」のことです。「基本をマスターし、そこに留まっていたのでは窮屈である。しかし、基本をおろそかにしては上達しない。基本を身に付け、そこから抜け出して初めて自分らしいオリジナリティーが發揮できる。」ということです。全ての学年の子供たちに通じる言葉です。梅の美しさや香りとともに、

この時期に、中西小の子供たちの成長を実感する言葉ではないかとも思います。「6年生を送る会」の次には、いよいよ「卒業式」が近づいてきます。「小学校の全課程を修了したことを証する」という卒業証書の18文字は、卒業生としての巣立ちの証です。そして、この証を渡すことができるのは、卒業生の周りのご家族を含め、多くの皆様のおかげによるものです。小学校という「格」から中学校というもう一つ上の「格」に進みます。小学校で培った生き方の基本、学習の基本を大きな柱として、中学校では自らのオリジナリティーの輝きを花開かせてください。また、5年生までの子供たちは進級により、一つ上の「格」に向かいます。中西小全ての子供たちにとっての新たな挑戦です。心より期待しています。

24日、全教職員が卒業生一人一人の巣立ちを温かく送る、最後の授業としての卒業式を、5年生の支えとともに実施します。卒業生の保護者の皆様・地域の皆様のご参会をお待ちしています。

「中西だより」は、この3月号で締めくくりの最終号となります。平成28年度の中村西小学校へのご理解とご協力に心より感謝申しあげます。誠にありがとうございました。またさらに、次年度も変わらぬご支援をよろしくお願い申しあげます。

日	月	火	水	木	金	土
26	27 全校朝会	28	3/1 避難訓練(集団下校)	2 児童集会 安全指導	3 保護者会(1~5年)	4
5	6 全校朝会 感謝の会(6年) 保護者会(6年)	7 二分の一成人式(4年)	8	9 たてわり班活動	10	11
12	13 全校朝会	14	15	16 音楽朝会	17 お誕生日給食	18
19	20 春分の日	21 全校朝会 (体育館準備のため 5年のみ15時下校)	22 給食終了	23 修了式 卒業式予行	24 卒業式(5・6年)	25
26 春季休業日 ~4/5	4/3	4	5 新6年生前日登校日	6 始業式・入学式	7 集団登校 給食始 定期健康診断始	8

3月の生活目標 1年間の生活をふりかえろう

